2012年度報告書（研究員）

氏　名	吉野裕介
職　位	研究員（短時間）

研究概要

ハイエクの経済思想に関する研究

　ハイエクの経済思想に関して，ポパーとの比較において，その学説の成り立ちを探った。それによれば，ハイエクとポパーとの個人的な交流は，書評のやりとり程度にとどまり，理論的・学説的な直接的な影響関係はさほど大きくはない。

　ただし，ハイエクは心理学的著作『感覚秩序』に対するポパーによるレビューを受けて，心の進化理論の構築へ向かい，それを社会理論に反映させていったとかんがえられるため，特に後期の社会哲学の形成については，ある程度の動機となったであろうことを論じた。

「新自由主義」と「福祉国家」の再考に関する思想的研究

　現在もハイエクの経済思想はフリードマンと並んで新自由主義経済思想の象徴として捉えられることが多い。かれの批判の対象は，全体主義や社会主義であり，果ては社会に計画を持ち込もうとする社会民主主義や福祉国家論までを含む。ところが「新自由主義」という用語の意味については，使用する論者によって意味の幅が大きく，現在では非常に広い意味で用いられている

　そこで，ハイエクが支持した意味での新自由主義や，かれが批判した福祉国家とは何を指すのかについて考察する。それにより，現状用いられている「新自由主義」の多義性に若干の見取り図を与えると共に，ハイエクが考えた時代状況の固有の問題と，現代における問題との異同についても論じ，現代の福祉国家思想の諸問題を闡明する準備とする。

業績リスト（著書、論文、報告、その他に分けて主要なものを記入する）

論文(1)「ハイエクにポパー的着想はあるのか？−個人的交流と学説への影響の考察から−」，『批判的合理主義研究』，日本ポパー哲学研究会，Vol.4，No.2，p.7−13，2012年12月。

(2)「ハイエクにおけるポパー的着想−W.W.バートリーの貢献をめぐって」，『批判的合理主義研究』，日本ポパー哲学研究会，pp.18−23，2012年6月。

(3)「書評：楠茂樹『ハイエク主義の企業の社会的責任論』」『経済学史研究』，経済学史学会，Vol.53, No.1, pp.128-9, 2012年7月。

(4)「書評：ラニー・エーベンシュタイン『フリードリヒ・ハイエク』」『週刊読書人』，10月19日号, p.8, 2012年10月。

(5)「東アジアでハイエクはどう読まれてきたのか」『春秋』，春秋社，2012年12月号，p.1-4。

学会報告：国内で二回。